

令和5年度 今福まちづくりセンターの主な取組

事業名

島根県立大学村山ゼミ生とのマッチング事業

P

●事業実施に至った背景、目的

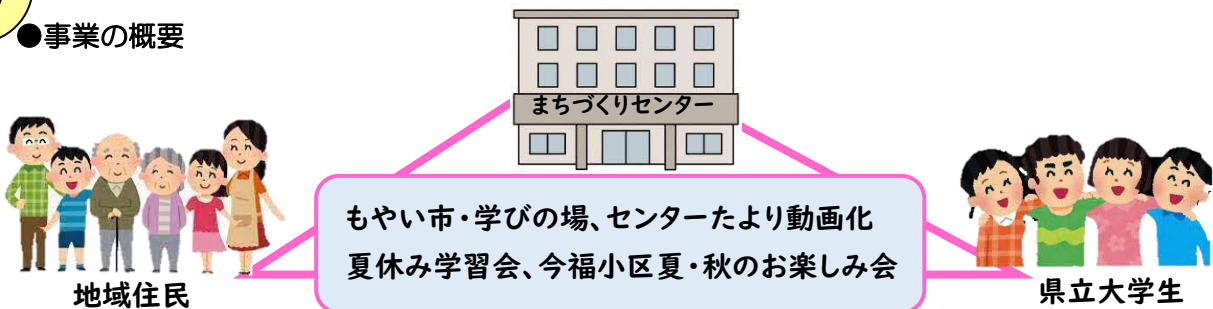
令和5年4月、島根県立大学村山誠教授、ゼミの学生15名、まちづくり委員、センター職員の意見交換会を開催した。それぞれの立場で、やってみたいことをジャストアイデア（思いつき、頭に浮かんだこと）の段階で対話した。協働のまちづくりを実現するため、協力して活動することの意義や発展性を共有。今後の取り組みについては、随時、連絡を取り合うこととした。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・マッチングできそうな事業について村山ゼミと情報共有。事業ごとに関係する地域住民へ理解、協力を図る。参加学生と打ち合わせして活動内容を具体化。（個々の事業ごとに随時）
- ・実施した事業...もやい市（5/20）、もやい市学びの場（5/20、6/17、12/2）、夏休み学習会（8/5～8/25の9日間）、今福小区夏のお楽しみ会（8/18）、秋のお楽しみ会（11/26）、センターだよりへの学生寄稿、センターだよりの動画化（4回）

D

●事業の概要



C

●事業実施後の振り返り

- ・昨年度からの継続事業、今年度初めて企画した事業ともに、県大生の意欲的な参加意識が活気を生み、活動の幅が広がった。
- ・幅広い年齢層の地域住民と県大生が交流するたび双方から好評を戴き、他の事業へも好循環が生まれた。
- ・数日間または数回継続した事業は、振り返りを重ねる中で適宜、修正や工夫を加えながら取り組むことができ、関係人口の創出につながった。

A

●令和6年度以降の方向性

- ・今年度、県立大学とマッチングした事業も、その他の事業も、関係人口の可能性を模索しながら企画していきたい。
- ・随時、県立大学村山ゼミと情報交換や話し合いをして、つながったご縁を育てるべく事業に生かしたい。
- ・県大生との対話を大切にして、県大生自らの企画や自主性を生かせるように心がけたい。

